

2	<p>「戦略案」の表題は「府中の生物多様性を豊かにするはじめての一步」とネーミングされているが、「生物多様性を豊かにする」という発想を疑う。一般的には開発により生物多様性は壊れたり、消滅してゆくものであり、「豊かにする」ということは単なる精神的な願望に過ぎず、仮に「府中の豊かな生物多様性」が存在するとすれば、それを維持し、保全することが求められる。このことを表題として表現するなら、「府中の豊かな生物多様性を守ろう」または、「府中の豊かな生物多様性を維持しよう」など、積極的な決意を込めるものにすべきである。</p>	<p>ご指摘のとおり、都市化の進展により、府中市の生物種は減少してきたと考えております。そのため、生物種が減少した現状を維持するというよりも、むしろ改善し、向上させるという積極的な決意を示すため、「生物多様性を豊かにする」としてあります。</p>
3	<p>「戦略案」全体を通読した印象では、「府中の生物多様性」を示す表現で不可欠は要素が、盛り込まれていない箇所が見受けられる。例えば1頁の「私たちのいのちと暮らしを支える生物多様性」の項の「大気と水」では、府中用水が取り上げられていないが、総延長何十キロにも及ぶ、この用水こそ多摩川と一体となって府中の自然環境を規定している特筆すべき環境要素であるので、この項のトップに位置づけるべきである。</p>	<p>「私たちの命と暮らしを支える生物多様性」においては、一例として西府湧水をあげておりますが、ご指摘のとおり、府中用水も府中の生物多様性の保全には欠かせない環境要素と認識しており、「府中市の自然の特徴」に府中用水についての記述を追記します。</p>
4	<p>1頁の「生物多様性の4つの危機」では、多摩川河川敷でのアレチウリの侵略が触れられているが、この外来植物による影響を、例えば「ツバメの集団ねぐら」から守れるか否かが問われている。つまりアレチウリ対策を如何に進めるかにかかっているが、河川管理の行政主体である国土交通省と府中市が連携して、どのようにこのアレチウリ対策を進めるかが見えてこない。これでは府中市がいくら市民との「協働」を叫んでも、アレチウリの侵略は食い止めることができない。</p>	<p>ご指摘のとおり、多摩川河川敷でのアレチウリの侵略は「ツバメの集団ねぐら」の保全に影響があり、市としましても、府中野鳥クラブ等と連携し、毎年アレチウリの駆除活動を行っております。</p> <p>「取組を進めるための推進体制」に示したとおり、河川管理の行政主体である国土交通省をはじめ、市民や各団体等と今後も連携を取り、対策を進めていく所存です。</p>
5	<p>5頁の「生物多様性を豊かにする主な</p>	<p>生物種が減少した現状を維持するとい</p>

	活動と今後の展開」の項目名を変更し、「生物多様性を保全するための活動と今後の展開」とすべきである。	うよりも、むしろ改善し、向上させるという積極的な決意を示すため、項目名は「生物多様性を豊かにする」としています。
6	6頁の「取組を進めるための推進体制」は当然だが、具体的に例えば市民団体と如何にして「協働」を進めるかが見えてこない。「戦略策定に当たって」では、「第1弾」や、「はじめの一步」が強調されているが、推進のための具体性に欠ける。「第2弾」や、「2歩目の取組」はどうか、疑問に思う。	本戦略は第2次府中市環境基本計画の重点プロジェクトの実現に向けた1つであることから、当該基本計画に示した推進体制をとることとし、その旨を追記します。また、市民団体との協働に関しては、府中市環境保全活動センターの積極的利用を進めてまいります。 また、本戦略は、平成27年度から平成31年度までの5年間を戦略期間として、市民に生物多様性の主流化を図ることに主眼を置いています。「第二弾」の取組としては、本戦略の成果や課題を検証し、生物多様性国家戦略の長期目標に合わせた長期目標の策定を検討しており、その旨を「戦略策定に当たって」に追記します。
7	表題について 「生物多様性を豊かにする」という表現は、間違いではないが、一般的にあまり使われていない表現ではないか。一般的には「生物多様性の保全や回復、持続可能な利用」などと表現されている。「生物多様性」とは、もともと地球上に豊かに存在していたものであり、それが人間の生活における行動や開発行為、さらには気候変動によって崩壊されたり、失われてきたことが問題となっているのではないのでしょうか。失われた生物多様性を保全、回復し、もとに戻す事で、持続可能な利用が促進されるように、地域で戦略をたてて維持していく事が求められているのが現状です。したがって、表現としては「失われた生物多様性を回復し、保全するための第1歩」または「豊かにあった府中の生物多様性を回復し、保全するための第1歩」としては如何か。	ご指摘のとおり、都市化の進展により、府中市の生物種は減少してきたと考えております。そのため、表題については、生物種が減少した現状を維持するというよりも、むしろ改善し、向上させるという積極的な決意を示すため、「生物多様性を豊かにする」としています。

8	<p>戦略期間について</p> <p>戦略期間が5年間となっているが、「はじめの一步」の期間が5年なのか、「二歩目」「三歩目」を含めて5年なのか見えません。失われた生物多様性を回復するためには、少なくとも20～30年以上要することであり、戦略もそれ相当の期間を設定する必要があるのではないか。</p>	<p>本戦略は、平成27年度から平成31年度までの5年間を戦略期間とした、「はじめの一步」になります。</p> <p>また、本戦略以降の取組としては、本戦略の成果と課題を検証した上で、生物多様性国家戦略の長期目標に合わせた長期目標の策定を検討しており、その旨を「戦略策定に当たって」に追記します。</p>
9	<p>「生物多様性を豊かにする主な活動と今後の展開」について</p> <p>緑の基本計画2009に示されている「緑の拠点」を中心に取り組むとあるが、緑の基本計画にある「水と緑の軸」が明記されていません。この軸には、緑の骨格をなす「府中崖線」と「多摩川」が位置づけされており、それぞれの拠点において今後どのように展開し、取り組んでいくのか表示する必要があります。</p> <p>「府中崖線」については、生態系の調査が近年実施されておらず、「府中かんきょう市民の会」では、「西府崖線保全チーム」を設置して、樹木や動植物などの生態系調査をはじめ、湧水調査や崖線下の用水路の魚類調査なども行っております。</p> <p>したがって、5頁の中に「府中崖線」と「多摩川周辺」を明記して、「水辺の楽校」や「ツバメの集団ねぐら」については、「多摩川周辺」の軸に位置づけて明記した方が分かりやすいと思います。</p> <p>「武蔵台公園」や「浅間山公園」「府中崖線」「多摩周辺」を「緑の拠点と軸」に位置付けして、それぞれ「概要」と「今後の展開・市の取組」を明記した方が分かりやすいと思います。</p> <p>「東京農工大学との連携」や「事業者の取組」は緑の拠点ではなく、実際に保全活動を行う時のパートナーであるべ</p>	<p>府中市緑の基本計画2009において記載されている取組については、本戦略では記載はしませんが、整合性を図りつつ、今後の展開・取組を検討してまいる所存です。</p> <p>また、「生物多様性を豊かにする主な活動と今後の展開」では、生物多様性の重要性や市内での様々な取組を、まずは市民に知ってもらおうという視点で整理しました。市内全ての活動について記載は難しく、数例をあげておりますが、「府中かんきょう市民の会」による西府崖線等での調査は、貴重なデータとして、今後の取組に活かしてまいる所存です。「地元大学との連携」や「事業者の取組」につきましても、緑の拠点ではありませんが、今後の生物多様性の保全への取組に欠かせない取組として記載しております。</p>

	<p>きで、この頁に明記すると分かりにくくなる。</p>	
10	<p>「府中市生物多様性地域戦略」の今後の進め方について</p> <p>パブリック・コメントの結果を戦略にどのように反映させるのか。また、戦略として進めるにあたり、「環境審議会」との関わりはどのように考えているのか見えません。推進体制に評価組織として明記されているが、戦略策定の段階で関与しておらず、評価組織に位置付けるのは如何なものか。</p> <p>今後、戦略を推進するにあたり、具体的な施策を明記して、市民（団体）、事業者などを含めて、作業を分担する必要があります。そのための推進体制を早急に立ち上げる必要があります。また戦略の「第二步」は何時までに策定するのか今後の方針を明らかにして欲しい。</p>	<p>パブリック・コメントでいただいた意見は、貴重なご意見として受け取り、必要に応じて戦略に反映してまいります。</p> <p>推進体制につきましては、本戦略は第2次府中市環境基本計画の重点プロジェクトの実現に向けた1つであることから、当該基本計画に示した推進体制をとることとし、その旨を追記します。</p> <p>なお、本戦略は、平成27年度から平成31年度までの5年間を戦略期間としていますが、その後の「第二步」につきましては、本戦略の成果と課題を検証した上で、生物多様性国家戦略の長期目標に合わせた長期目標の策定を検討しており、その旨を「戦略策定に当たって」に追記します。</p>
11	<p>地域戦略（案）全般について、豊かな府中市、エコな府中市のために、各項目の内容は分かりやすく、かつ3つの方針やステップ、推進体制などすべて説得力満点と思われまます。今回の（案）を是非完結されることを期待します。</p>	<p>本戦略をご理解いただきありがとうございます。市民の皆さまと共に、本戦略に示した取組を推進してまいります。</p>
12	<p>詳細な現地調査によるナマの基礎データの収集について。現地調査に基づく地域の生物多様性の評価については、現地のナマのデータに勝る資料はありません。その点、次のような点を検討する余地があります。</p> <p>①植物については、約50年前に、農工大学の奥富先生が中心になり、府中市の植生図を作成しました。図は公表されていますが、その元になる調査票を府中市は保管していますか。今からでも入手をお願いします。</p> <p>②動物関係では、府中野鳥の会の詳細なデータが蓄積されています。しかし、昆</p>	<p>ご指摘のとおり、現地調査に基づくデータは貴重な資料と認識しており、①で示されたデータにつきましても、重要なデータとして、把握しております。今後とも各市民団体等の調査データの集約に努めるとともに、東京農工大学などの専門機関との連携を深めてまいります。</p> <p>貴重なご意見ありがとうございます。</p>

	<p>虫や甲殻類等などの分野の資料も総合評価上収集の必要があります。</p> <p>③①及び②について、将来の生物多様性の変化を把握するために、農工大学か専門家に委託して資料の収集をすべきと思います。</p> <p>④府中市で収集の上記資料については、その評価のため独自の評価委員会を設置して評価を行うことが適切です。</p> <p>⑤評価結果は、環境省、東京都にと取っても信憑性の高い有効な資料になります。</p> <p>⑥なお、現在の東京都の評価方法は、文献資料が中心で、一部ヒヤリングです。また、府中市独自の評価はしておらず、東京都陸上部を4区分し、北多摩地区として18市を一括して評価していますので、府中市の生物多様性の変化が良く読めません。</p>	
13	<p>府中市の生物多様性地域戦略の普及・啓発について。府中市の素晴らしい地域戦略ですから、25万市民等にあらゆる機会を活用し、まず第1次戦略の理解と深化を望み、かつ期待しています。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。普及啓発に努めてまいります。</p>
14	<p>「生物多様性とは」の説明がいきなり表紙にあります。まずは、府中市生物多様性地域戦略がどのような目的で作成されたものなのかについて記載した方がよいのではないのでしょうか。</p>	<p>「戦略策定に当たって」に本戦略が生物多様性基本法第3条の基本原則に沿って策定するものである旨を追記します。</p>
15	<p>「～府中市固有の生物多様性に支えられています。」という文章ですが、「府中市固有の生物多様性」というところがひっかかります。府中市らしい、府中市特有の、などに変えてはいかががでしょうか。また、「生物多様性に支えられる私たちの暮らし」というところも違和感があります。</p>	<p>「私たちの暮らしといきものとの関わり」において、「固有」とは「もともとからある」という意味であり、適切な言葉と認識しております。文章については、より分かりやすい表現にするため、一部文章を修正します。</p>
16	<p>生き物としての機能の利用の最初にドクダミが出ていますが、府中市らしい</p>	<p>ご指摘のとおり、ドクダミの記述につきましては、より府中に親しみのあるものに</p>

	ものをトップにもってきてはいかがでしょうか。	修正します。
17	「人間の自然への働きかけの減少による危機」という文章が、回りくどくわかりづらいと思います。	農用地や樹林地など、人が手をかけて維持してきた環境が荒廃しつつあるという意味を表現しています。
18	「目指すべき姿」の中で、人と生きものが豊かに共存し、とありますが、豊かに共存するというイメージがわかりません。また、農地や社寺林などを「人里」とされていますが、府中市は「まち」であって、その中で「人里」となると、奥山がある地方と違い、イメージが合わないと思います。	生物多様性が豊かなまちづくりを行うことで、市民の暮らしも豊かになっていくという姿を目指しています。また、「人里」は「人家が集まっている所」であるため必ずしも奥山とは限りませんが、「里地」と変更した上で、説明文も一部修正します。
19	「府中市の自然の特徴」について、文章とイラストのみとなっていますが、せっかくの豊かな府中市の自然が、これだけでは現状として把握しづらいと思います。もっと写真や地図などで視覚的にわかりやすく表現してもらいたいと思います。	「府中市の自然の特徴」については、ご指摘を踏まえ、説明を修正します。なお、写真や地図につきましては、「生物多様性を豊かにする主な活動と今後の展開」に紹介をしています。
20	方針の具体的な取り組みのところ、普及啓発の生きもの目録を作成するというのは、方針2に該当すると思います。逆に、方針2の水辺の楽校は、方針1ではないでしょうか。	生きもの目録の作成については、作成した上で、市民との共有という考えのもと、方針1の「普及啓発」に分類しています。また、「府中水辺の楽校」については、ご指摘のとおり普及啓発としての役割も担っていますが、より多くの市民の参加への願いを込めて、方針3「市民との協働」へ変更します。
21	「知る」、「学ぶ」、「行動する」の3ステップはわかりやすいと思います。 家、学校・職場・野外と3パターンに分けてそれぞれ3ステップを紹介されていますが、ひとつずつが分断されていて、ストーリーとして入ってきません。ちょっとしたことで、というには、ハードルが高い内容も含まれていて読んで混乱します。 ごみは捨てない、というのは一般的なマナーであって、生物多様性戦略とのつ	多くの市民に、まずは1つでも興味を持ってもらうことを目的とし、様々な分野の項目を取り入れました。 ご指摘のとおり、ごみは捨てないというのは、一般的なマナーではありますが、釣り糸が野鳥に絡まることや、廃棄物を動物が食べてしまうことなど、それが生態系にも影響するという認識を認識してもらうためにも記載をしています。

	ながりが見えづらいと思います。	
22	<p>今後の展開については、各所での活動など写真入りでわかりやすいと思います。</p> <p>都立浅間山公園については、市として適正な維持管理に努めます、とありますが、都立公園において市が直接維持管理にかかわるのでしょうか。</p>	<p>都立浅間山公園につきましては、記載のとおり、公園の所在市として、東京都や市民団体との連携を進め、生物多様性の保全に取り組んでまいります。</p>
23	<p>水と緑のネットワーク形成という構想は素晴らしいと思います。各所での活動の紹介だけでなく、府中市としてこれらをつないでいくような今後の展開はどうお考えか、具体的な部分も記載いただきたいです。</p>	<p>水と緑のネットワーク形成は、府中市緑の基本計画2009の重点施策として掲げており、それに基づき具体的取組を検討します。</p>
24	<p>表題に生物多様性に関する説明を簡単に記述してあるが、ここはもっと丁寧に解説すべきではないかと考えます。広く浸透してきているとはいえ、これでは一般市民の方は生物多様性が何であるかを理解することは出来ないと考えます。むしろ、作成に至る経緯や、7頁にある「戦略策定に当たって」を表題にもってくるべきではないでしょうか。</p>	<p>生物多様性に関する説明につきましては、市民がまずは興味を持ってもらうことを目的とし、写真とともに簡潔に説明をしています。作成に至る経緯などは、ご指摘を踏まえ、「戦略策定に当たって」に生物多様性基本法第3条の基本原則に沿って策定するものである旨を追記します。</p>
25	<p>いきなり「生態系サービスの利点」についての記述が1頁にきていますが、生態系サービスが受けられるから、生物多様性が大切なのでしょうか。それだけではないはずです。</p> <p>暮らしにスポットを当てすぎて、府中市の自然がどんなものかが省略され過ぎています。2頁のたった5行だけでは、市民の理解は得られません。むしろ6頁の活動紹介に自然紹介も加えて、「府中市の自然はこんなに素晴らしい」と示した方が良いのではないのでしょうか。</p> <p>※流れの例：「府中市の自然はこんなに素晴らしい」⇒「それを形づくる生物多様性」⇒「生物多様性とはなにか」</p>	<p>「私たちの命と暮らしを支える生物多様性」では、市民の暮らしに密接に関係した事例を取り上げました。府中市の自然を省略して、暮らしにスポットを当てたということではありませんが、ご指摘を踏まえ、一部修正します</p> <p>また、「府中の自然の特徴」においても、土地利用の歴史などの説明を追記します。</p>

26	<p>「調査の継続・報告」や「レッドリスト等の作成」は普及啓発ではなく、保全の区分に入るはずです。また、「府中水辺の楽校支援の継続」は普及啓発だと考えられます。項目を整理しなおす必要があると考えます。</p>	<p>生きもの目録の作成については、作成した上で、市民との共有という考えのもと、方針1の「普及啓発」に分類しています。また、「府中水辺の楽校」については、ご指摘のとおり普及啓発としての役割も担っていますが、より多くの市民の参加の願いを込めて、方針3「市民との協働」へ変更します。</p>
27	<p>生物多様性との付き合い方3つのステップについて（3頁）・「知る」「学ぶ」「行動する」が今一つ整理されていないように感じます。「観察する」は「知る」のステップにしては敷居が高いです。ステップ2には、「気づく」の上位互換として「理解する」を入れてもいいかと思えます。項目の整理と再構築が必要ではないでしょうか</p>	<p>3つのステップに関しましては、市民の有する生物多様性に関する体験や知見は様々であることから、現行のような分類としています。</p>
28	<p>3頁の「ちょっとしたことで生物多様性」で、今の例示ですと、「知る」「伝える」「行動する」という項目に、必ずしも一致していません。例えば「野外で」の欄の「step2」ですが「自然観察会や取組への参加」とありますが、「参加する」は「step3」と書かれていないですか。もっと整理し、内容も練り込むべきと思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地産地消やベランダ緑化は確かに大切です。しかし、農地が生物にとって大切な生息場所である説明が省かれているため、一般市民には伝わりません。「植える」という記述が多く、「在来」とは言っているものの、このままでは奥多摩あたりから植物を持ってきて植える人も多そうです。全体的に説明不足です。 ・ステップがつながっていません。例えば「学校職場」の欄です。「昔の様子を知る」⇒外来種について学ぶ⇒「空間をつくる」。項目が散開し過ぎではないでしょうか。識者ならば想像力を働かせ 	<p>生物多様性について、これまで関心の無かった市民の方には、まずは1つでも興味を持ってもらうことを目的とし、また、関心の高い方には、じっくり観察してもらうためのヒントとして、様々な分野の項目を取り入れています。</p>

	<p>てつなぐことができますが、一般市民向けとしては酷かと思えます。</p> <p>・「家で」「学校職場で」「野外で」の大きなステップもつながっていません。「ネットワークが大切」なのではないのですか。もっとストーリーを考えて構築すべきです。</p> <p>例：(1) 家で：「家族で話す」⇒「身近な生きものを調べる」⇒「友人や同僚に話す」(2) 学校職場で：「府中市の自然や歴史・生活を知る場をつくる」⇒「府中市の特性と問題点を理解する」⇒「近隣で行われる活動を紹介する」「府中市らしい生きものが棲息できる環境を創出する」(3) 野外で「地域で」：「自然環境が残る近隣の場所を訪れる」⇒「見つけた生きものや散策した環境について図書館で調べる」⇒「自然観察会や保全活動に参加」</p>	
29	<p>「主な活動と今後の展開」について(6頁)府中市の緑のネットワークが描かれた非常に良い図であると考えます。しかしながら、今回の案の中では、ネットワークの重要性がどこにも説かれていません。ここで突然図が表れても、市民は混乱します。「緑の基本計画2009」を参照させるだけでは不親切です。簡易な説明が必要かと思えます。</p>	<p>緑のネットワークについては、ご指摘のとおり府中市緑の基本計画2009において、重点施策として取り上げておりますので、詳細な説明は本戦略では記載はしませんが、ご指摘を踏まえ、「府中市の生物多様性への方針と取組」の方針3の具体的取組として追記します。</p>
30	<p>表紙の遺伝子の多様性についての「個体や個体群の間に遺伝子レベルでは」という説明が、一般市民にはやや難しいと思われる。種や生態系の多様性の説明文のように、もう少し噛み砕いた表現ができるとよいと思えます。</p>	<p>ご指摘を踏まえ、「同じ種でも形や模様、生態などに多様な個性があること」と修正します。</p>
31	<p>「私たちのいのちと暮らしを支える生物多様性」で、「武蔵台公園などの街中の緑」は「大気と水」につながらないと思えます。「武蔵野の雑木林」の項目に含めてはいかがでしょうか。</p>	<p>ご指摘を踏まえ、「武蔵野の雑木林や公園などが調節する気温や湿度」と修正します。</p> <p>また、府中市生物多様性地域戦略検討協議会において、江戸時代から府中で栽培さ</p>

	<p>農産物は「地域固有」と表現できるのでしょうか。真桑瓜やのらぼう菜は府中市以外でも栽培されているようですし、府中市が発祥でもないようです。農産物自体が生態系の一員だと思われるので、ここで「地域固有」という表現をわざわざ用いる必要はないと思います。</p>	<p>れている真桑瓜は原種保存の取組が行われている旨の報告があり、「地域固有」と記載をしています。</p>
32	<p>「生物多様性の4つの危機」で危機に「面する」は誤りで、危機に「瀕する」あるいは「直面する」が適切です。</p> <p>生物多様性の4つの危機は日本全国で共通のことですが、この表記だと府中市（だけ）での危機のように捉えられかねないと思います。「日本での危機」と明記した上で、府中市での具体的な現象として現行の記事を掲載するのがよいと思います。</p>	<p>「生物多様性の4つの危機」の説明文について、ご指摘のとおり危機に「瀕する」に修正します。</p> <p>また、4つの危機について、市民により分かりやすい事例として、府中市に関わる例をあげました。ご指摘を踏まえ、「これらは、私たちがこれからも生きものの恵みを受け続けるために、府中市においても解決すべき課題でもあります。」の一文を追記します。</p>
33	<p>「府中市の自然の特徴」について「南北に多摩川低地」よりも「南北の多摩川低地」が適当だと思います。</p>	<p>ご指摘を踏まえ、「南から多摩川低地、～」と説明を修正します。</p>
34	<p>2頁の目指すべき姿では人と生きものが「共存」としていますが、3頁冒頭では「共生」と書かれています。これらは同義語ではないので、どちらかに統一すべきだと思います。</p>	<p>ご指摘を踏まえ「共存」に統一します。</p>
35	<p>4頁、学校や職場での学びの項目で、「外来種」と「在来種」が混在していますが、この文章で正しいのでしょうか。「在来種」に統一されるべきかと思われます。</p> <p>・野外で行動する項目で、「生物多様性が豊かになったとはいえません」とありますが、これでは表現が柔らかすぎると感じます。生物多様性の向上に貢献していないどころではなく、生態系を攪乱し生物多様性の低下につながる行為です。マナーではなくルールとして厳守していけるよう、表現を再考すべきだと感じ</p>	<p>「外来種」について、知識を深めてもらいたいとの思いから現行のような表記になっていますが、ご指摘も踏まえ、「外来種」の注釈を追記し、より理解しやすくなるように修正します。</p> <p>また、野生の生きものに餌をあげることを、自然（生物多様性）が豊かになると誤解している市民もいるため、「生物多様性が豊かになったとはいえません」としましたが、ご指摘を、踏まえ「生物多様性を豊かにすることにはつながりません」と修正します。</p>

	ます。	
36	5頁の府中水辺の楽校の内容で「川遊びをしたり…」とありますが、「～たり、～たり」と繰り返すのが正しい用法のようですので、表現を再考すべきだと感じます。	ご指摘を踏まえ「川遊びをしたり、生きものや植物などの観察をしたりするなど、」に修正します。
37	「自然観察会や各種取組」「府中でとれた農作物」などについて、具体的な情報（団体名、活動場所、販売所、その情報を得る方法など）も掲載すれば、市民が実際に行動しやすいと感じました。	本戦略に記載することは、紙面の都合上、難しいと考えますが、ご指摘の情報につきましては、生物多様性の普及啓発には重要な情報であると認識し、「府中市の生物多様性への方針と取組」の方針1の取組で掲げたとおり、ホームページ等で積極的に公表していく所存です。
38	なぜ「生物多様性」が必要なのかの説明が不十分に感じます。国際的な要請であることに触れられてもいいのではと思います。5年計画だそうですが、一年目の目標、2年目の目標等、具体的に書かれていないので、全体に漠然としている。この「戦略（案）」はパンフレットのように基本的な考え方がよくわからない。「見せる」ことより市民とどのように「協働」していくのかを知りたいと思いました。	ご指摘を踏まえ、生物多様性基本法第3条の基本原則に沿って策定するものである旨を追記します。 本戦略は、市民に生物多様性の主流化を図ることを主眼に置いており、まずは興味を持ってもらうことを念頭に、パンフレットのような形式で作成しています。
39	・全体的に非常に稚拙で、かつ抽象的戦略案を策定するにあたり、地元で活動する市民団体の意見を吸い上げたり、専門家のアドバイスを受けるような場はあったのか。もしそれがあつたとするなら、そこでの意見を戦略案にきちんと反映しているのか。疑問に感じる。そうしたことをやっていないのなら、今からでもやって作りなおすべきである。	本戦略は、生物多様性について、関心の薄い市民でも、まずは興味を持ってもらうことに主眼を置いています。 また、公募による市民、学識経験者、環境保全等に関する団体の構成員、関係行政機関等の職員からなる府中市生物多様性地域戦略検討協議会を設置し、協議会や自然観察会を開催し、意見を集めた上で作成しています。
40	・環境調査は行ったのか。 府中市における生物多様性の財産、そして課題といったことが計画から見えない。一般的な情報ばかりで浅い。策定にあたり、詳細な環境調査を実施したのか。	市では、これまでも自然調査団による調査や、自然環境調査員による調査、各市民団体による自然調査が行われており、これらを踏まえ、本戦略を作成しました。 今後は、地元の大学である東京農工大学との連携を一層強化し、自然環境調査員に

	調査をやらなければ、具体的にどこをどう守るか、何を行うかといった戦略は立てられない。まだやっていないのであれば、最低1年間はかけて調査をすべき。	よる調査を進めるとともに、各市民団体が実施する調査の結果を集約するなどし、「府中市の生物多様性への方針と取組」の方針1にある生きものの情報を収集し、府中の生きものマップやレッドリスト(府中市版)などを作成することで、生物多様性の普及啓発、生息空間の保全に努めてまいります。
41	・国や都の戦略とのつながりが見えない	生物多様性基本法第3条の基本原則に沿って策定するものである旨を追記します。国や都とは、「取組を進めるための推進体制」の記載どおり、連携して取組を進めます。
42	・文化的な内容が無い 生物多様性に育まれた文化というものが、府中市にもあるはずである。普段、生物多様性という言葉を知らない一般市民にとって、そうした内容を入れたほうが馴染みやすいと思われる。	「私たちの暮らしと生きものとの関わり」に文化的背景がある旨を追記します。また、「私たちの命と暮らしを支える生物多様性」を一部修正し、「郷土の風景と文化」と変更します。
43	・優先順位がおかしい 「ちょっとしたことで生物多様性」はけっこうだが、このために6頁中の1.5頁を割いているというのは、優先順位のおかしい。これが戦略の主要項目という感じに見える。どう考えても、重要なのは「方針と取組」や「今後の展開」であり、そちらにページを割くべきである。散歩やゴミ拾いで生物多様性が守れるとは思えない。	本戦略は「はじめの一步」として、市民に生物多様性の主流化を図ることを主眼に置いており、生物多様性に関心の低い市民にも、まずは興味を持ってもらうことを念頭に作成しています。
44	・役割分担が不明確 誰がどの部分を担うのかが見えにくい。市はこれからの5年間でなにをするのか。企業は何をするのか。一覧表にすべき。	本戦略を進めるための役割分担は「取組を進めるための推進体制」に示していますが、本戦略は第2次府中市環境基本計画の重点プロジェクトの実現に向けた1つであることから、当該基本計画に示した推進体制をとることとし、その旨を追記します。
45	・ボリュームが少ない 市の今後の5年間の戦略として、たった6頁しかない時点で内容は不足と言っ	本戦略は「はじめの一步」として、市民に生物多様性の主流化を図ることを主眼に置いており、まずは興味を持ってもらう

	<p>ても過言ではない。それともこれは概要版で、詳細版が存在するのか。もっと具体的で詳しいものが必要。</p>	<p>ことを念頭に、簡潔な内容、且つ量としています。</p>
46	<p>3頁「知る～学ぶの3ステップ」について「知る」と「学ぶ」のカテゴリ一分けがあいまいなようです。</p> <p>「知る」では生物多様性の考え方と、それがそれまでの考え方、価値観とも違う点などを書いていただきたい。</p> <p>かつての暮らしなどについては「学ぶ」に入れて、その中の何が生物多様性寄与していたかも書いていただきたい。</p> <p>かつての里山の価値観は、むしろ食糧や燃料など生活の利益に直結するものを大切にするもので、だからその後に農薬の時代が来たからです。（大切な米は取れて、カエルやヘビは消えてもいという考え方）その意味で1頁の「私たちの暮らしを支える生物多様性」の項目にも、今利益を得ているものだけでなく、未来に利益を得る可能性のあるものもいれていただきたい。たとえばゴキブリからガンの特効薬が見つかるかもしれないし、最新のロケットのデザインを何かの鳥や昆虫から学べるかもしれないということです。</p>	<p>貴重なご意見として頂戴し、今後、取組を進めるにあたり、参考にさせていただきます。</p>
47	<p>【全体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文章そのものがわかりにくい。表現、文脈など、あまり知識が無い人には、何が言いたいかわからない。 ・生物多様性についてきちんと理解している人、流れがわかっている人が書いたとは思えない。 	<p>本戦略は、生物多様性について、関心の薄い市民でも、まずは興味を持ってもらうことに主眼を置いています。</p> <p>また、本戦略は公募による市民、学識経験者、環境保全等に関する団体の構成員、関係行政機関等の職員からなる府中市生物多様性地域戦略検討協議会を設置し、協議会や自然観察会を開催し、意見を集めた上で作成しています。</p>
48	<p>【私たちの暮らしと生きものとの関わり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・戦略案の最後で「生きものに市境は関係ない」と言っているにも関わらず、府 	<p>「生きものに市境は関係ない」ですが、府中市における戦略であるため、市民により身近な内容になるよう作成しています。</p> <p>第2段落の文章については、一つの生物</p>

	<p>中市の中だけを見ようという文章にも見える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第2段落の文章が、非常にわかりにくい。生きものは異なる個性をもっており、その一つ一つが生態系の重要な構成要素である・・・という意味？ 	<p>種は、ある生態系の中で他の種とのつながりがあるのと同時に、私たちの暮らしにも関係しているという意味になります。</p>
49	<p>【私たちのいのちと暮らしを支える生物多様性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各項目とその内容が、唐突すぎる。知識をもたない人、馴染みがない人には、タイトルと中身の繋がりがわからないのでは。 	<p>ご指摘を踏まえ、生物多様性に関心の薄い市民でも、生物多様性が自らの生活に繋がっていることが理解できるよう整理し、「大気や水」「食料や燃料などの資源」「安全で快適な暮らし」「郷土の風景と文化」と修正します。</p>
50	<p>【生物多様性の4つの危機】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「人間の自然への働きかけの減少による危機」 <p>なぜ手入れ不足が起こるのか、その背景も大切であるはず。この文章ではそれがわからず、単なる怠慢のように見られる危険性もある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地球環境の変化による危機」 <p>タイトルをほぼ繰り返しただけの内容になっている。</p>	<p>雑木林など、担い手が不足するなどして、管理が放棄されることなどの背景があることを前提に記載しています。また、地球環境の変化として、府中市でも平均気温が上昇している事実について説明しています。</p>
51	<p>【府中市の生物多様性への方針と取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5年間の具体的取組としては、かなり弱い。ステップアップしていく感じが弱い。 	<p>「普及啓発」「生息空間の保全」「市民との協働」という明確な3つの方針を立て、それぞれについて、具体的な取組を記載しています。こうした取組の積み重ねによりステップアップしていくと考えます。</p>
52	<p>【ちょっとしたことで生物多様性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「生物多様性」に繋がるステップとは思えない。 ・生物多様性について知らない人が、聞いたこと、調べて書いてあったことをまとめただけのよう。 	<p>生物多様性について、関心の薄い市民でも、まずは1つでも興味を持ってもらうためのヒントとして、様々な分野の項目を取り入れています。</p>